
S
「1分間だけ挿れてもいいよ…」
シェアハウスの秘密ルール。
2
OUMA

「1分間だけ挿れてもいいよ…」シェアハウスの秘密ルール。

第2話


ハァ…
んんっ
ドピュッ
あっ!!
ビクッ ビクッ
ハァ…
グスン…
―翌日―
ボーッ

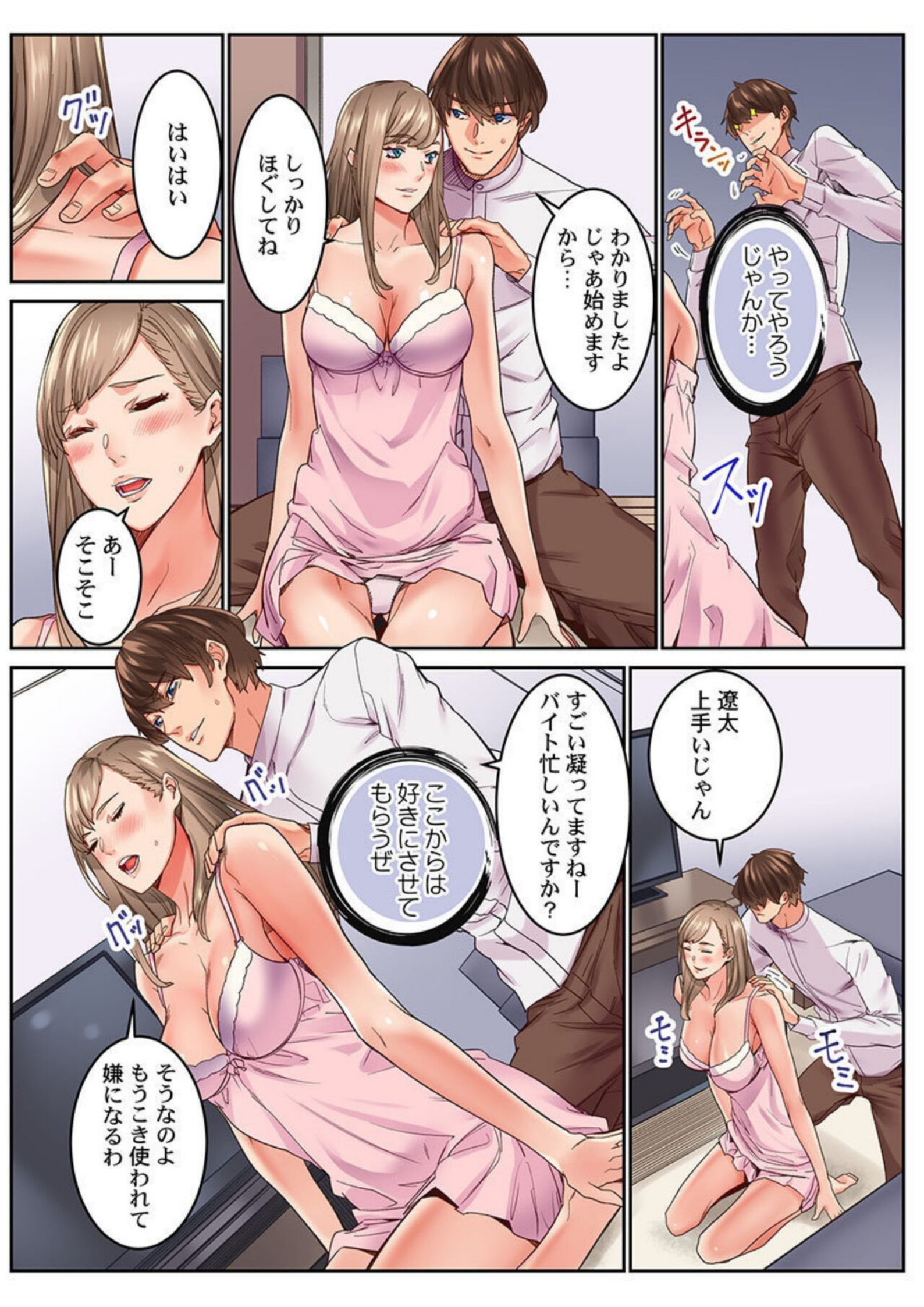

やってしまったぁぁぁ
ケラッ
プイッ
ビクッ
何この空気…
アンタたちまさか昨日…
うぉ…
ダンッ
違うって！
そそろそろ学校の準備しなきゃ…奏は？
ニヤ
ニヤッ
私は今日遅番だし


ふふーん…
とにかく私
いくね！
はいよー
気をつけて
…
いってらっしゃい…
…
遼太ー
パントリーに
何かない？
むちっ
自分でとれば
いいでしょ…
俺だって
忙しいんですよ
桃香と
仲直りする方法
考えなきゃ
だよな…
ホラッ
ありがとう
おっ私の
好きなヤツじゃん


忙しぶっちゃってさぁ
ポキ
どうせやることないんでしょ違う？
ぷるんっ
ねぇどこみてんの…？
ビクッ
べ 別に何もみてません！
スッ
ふーん
箱買しようかなコレ…
しかし昨日はどう考えても調子に乗りすぎたよな…桃香の様子も変だったし…
ズズッ
っていうかなんで奏さんにチクらなかったんだろ…


っ！
もしかして
俺に気が
ある…!?
いや
いくら
なんでも都合
よすぎるな
…
単に気持ち
良かっただけ
か…？
だとしたら
コツコツ性感帯を
開発してきた
甲斐が…
…太
遼太！
ズズッ
ん？
ねぇ…
タッチ…
してくれない？


ブーッ
なんだなんだ…
なんで奏さんから
タッチ申請が…？
もしかして
エロいことの
お誘いか…？
ハア…
ゴクリ…
ゴシ
ゴシ
ハア…
なにボーッと
してるのよ
肩凝ってるから
ほら 揉んで
いいよ
スッ
…
あ…
そういう事か…
くそ…
なめやがって…
それなら…
むっ…


キラン
やってやろうじゃんか…
スッ
わかりましたよじゃあ始めますから…
しっかりほぐしてね
はいはい
グッ
あーそこそこ
遼太上手いじゃん
モミ
モミ
すごい凝ってますねーバイト忙しいんですか？
ここからは好きにさせてもらうぜ
グッ
グッ
そうなのよもうこき使われて嫌になるわ

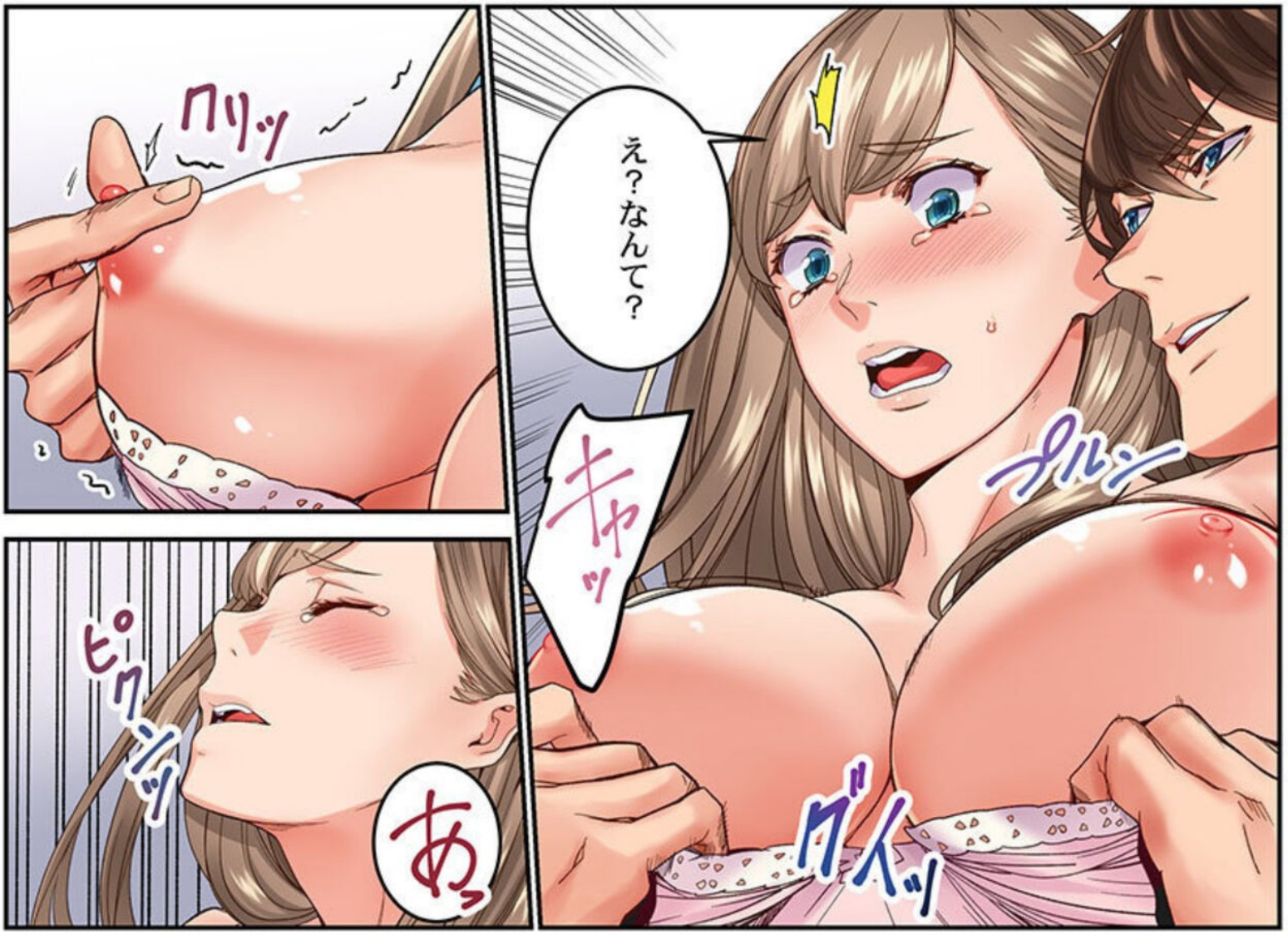

お前は俺をこき使ってるけどな
サワ
あ
ピクッ
本当に上手くなって…ん？なんかちょっと手が…
際どすぎじゃ…
もう1分経ってるじゃん！
スッ
!!
グニッ
ヤッ
タイマー
01:25.09
ちょっと遼太!!


今日は1分じゃ終わらないんですよ奏さん
は？
何…？急に開き直って…
違いますよ積み立てられてるんです
スッ…
未消化のタッチポイントがね
家事タッチポイント
掃除×7
料理×10
洗濯×8
買い物×12
雑用×18
計55分
ビクン
はあぁ

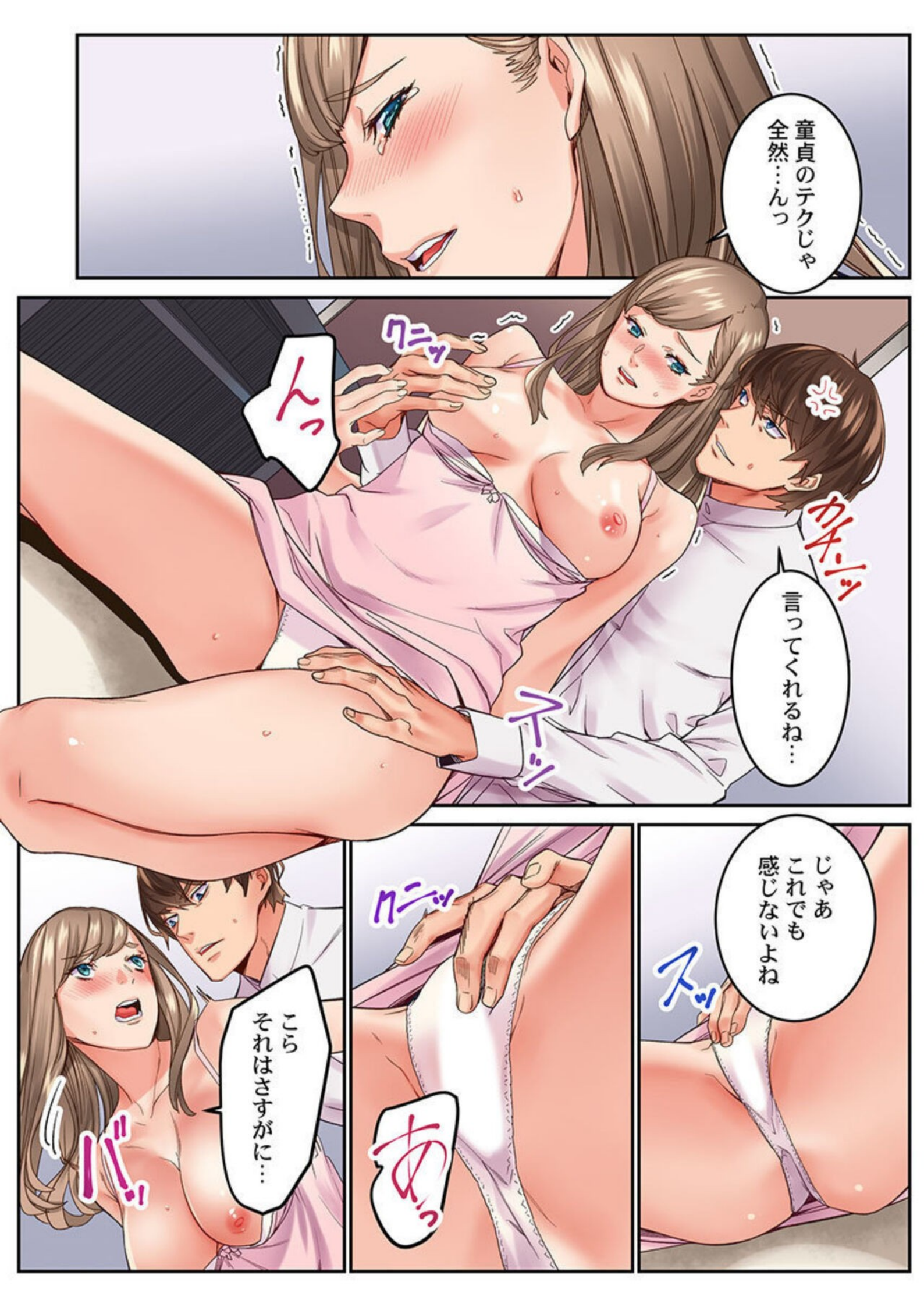

だから時間はまだまだ残ってるんですよ
ウソだー！そんなに貯まってるわけ…
貯まってるわけ…
確かに…遼太をめちゃくちゃこき使ってたかな…
というわけでしっかりと権利を行使させてもらいますよ
遼太に触られるくらいどってことないし
それよりアンタ昨日 桃香と
いいわよ…別に…
はあ…


ぴくっ
ちょっ
服の中は…！
桃香が
なんですか？
スッ
スル
スル
ていうか
奏さん…


俺に触られてもなんともないんじゃなかった？
当たり前でしょ
でもだからって服の中に手を入れるのは…
感じるから？
ちがっ！
手が…
んっ…
あっん…!!
ピクン
んっ!!
グニッ
奏さん柔らけー
こ…らぁ…やめ…ろっ
グッ
グッ


クリッ
え？なんて？
キャッ
プルン
ピクンッ
あっ
グイッ


あれー？
もしかして
感じてます？
んっ
クニッ
クニッ
ふっ
別に…か…
感じてなんか…んっ
へー

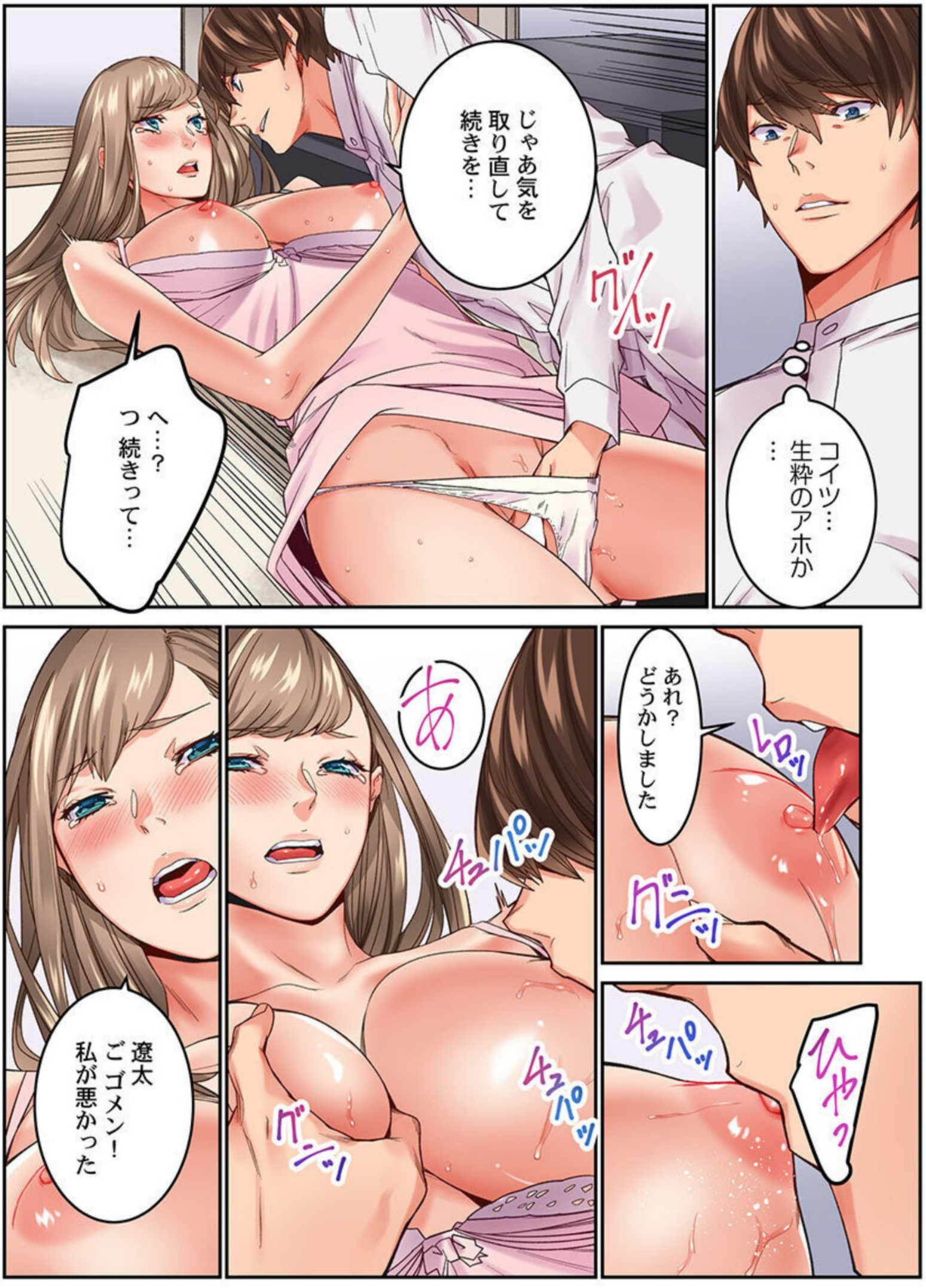

童貞のテクじゃ全然…んっ
クニッ
んっ
カチッ
言ってくれるね…
アッ
じゃあこれでも感じないよね
スッ
クニッ
あっ
こらそれはさすがに…
バッ


ピクッ
んっ
ハムッ
グッ
トっ
クンッ
!!
グッ
んんっ
クチュッ
ハムッ
んっ
んんっ
クチャ
クチュッ
スルッ
スルッ


んんっ!!
ムチュプッ
ビクッ
グニッ
んっ
ムチュ
嘘っ…コイツ…
キス上手い…っ
んっ
クチュ
クチュ
クチュ
クチュ
んんふっっ
クチュ
クチュ
ムチュ
こんなの…
やばいって…
ムチュ
んあっ
プハッ


んっ
ジュプッ
ジュプ
んっ
なんか
むきになって
またとんでもない
ことしてるような
クニュ
クニュ
んっ
でも
ここまできたら
やめられない…
もっと奏さんの
中を…
あっ
ビクッ
ん
触りたい…
い 今やめれば
このこと…桃香には
ビクッ
ビクッ
クニュ
クニュ
んあ
グッ
んっだめ…！


びくっ
…！
あっやば…
あ…
イクっ！
びくんっ
んんっ!!
びくっ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
奏さん…？
大丈夫…？
…何が？
別になんとも
ないけど…
ムたー
やば…
本気で
やりすぎた？


コイツ…
生粋のアホか
…
じゃあ気を
取り直して
続きを…
グッ
へ…？
つ続きって…
あれ？
どうかしました
レロッ
グニッ
あ
ムニパッ
ムニパッ
グニッ
遼太
ごゴメン！
私が悪かった
ムニパッ
ひゃっ


童貞のテクだとか言って…
それは…からかった…だけ…っ
素直に認めたらいいのに
ズルッ
こんなに濡れてるんだから
クチュ
クチュ
ちょっ待って！
んっ！
んんっ
ズッ


いくっ!!
ビクンッ
ビクッ
ビクン
ビクン
んあああっ
クパッ
ビク
ビクン
あ…
また…
ズッ
ズッ
あ…
ハァ
ハァ
ハァ…
ハァ…
ハァ…
りょう…
たあ…


…挿れるよ？
…っ
ハァ
ハァ
グッ
グッ
スリッ
グッ
あっ…
やば先っぽ…
太い…
ガチャッ


ただいまー
ビクッ
お…おかえり…
あっ
2人とも居たんだ何してるの？
ドキッ
おかえりー早かったね
ドキッ
ドキッ
え…？助けてくれた…？
大丈夫だった!?
なにが？
ってか今度エステの体験とか行かない？
最近 疲れが溜まりまくっててさぁー肩揉んでもらってたのー


!!
スッ
くるっ
えっ…
なっ！
ビクッ
ノクルッ
？
ボソッ
バーカっ！
？

「1分間だけ挿れてもいいよ…」シェアハウスの秘密ルール。(2)

著者　OUMA
発行　スクリーモ

この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには一切関係ありません。
本書の一部あるいは全部を無断で複製、転載、上映、放送、配信、送信したり、
ネットへのアップロードなどは、著作権法上での除外を除き禁止します。


S
「1分間だけ挿れてもいいよ…」
シェアハウスの秘密ルール。
3
OUMA

「1分間だけ挿れてもいいよ…」シェアハウスの秘密ルール。

第 3 話


カリ
カリ
ハアーッ!!
よし
あと一息…
ここでの生活も
ようやく慣れてきて
冷静に考えたら…
今の状況って
とんでもなく
ラッキーなんじゃ
ないか?


超我儘だけど
ルックスやスタイル
は抜群だし…
そんな子達と
一つ屋根の下で
暮らしてるん
だよなぁー
スッ
グッ
まさに奇跡！
奏さん！
ビクッ
何ひとりで
ぶつぶつ言ってるの？
気持ちワル…
勉強…？
あっうん
レポートの
期限が近くて…
ふーん
そうなんだ


この前のキス…
うへ…全然わかんない…
あれは一体どういうつもりで…
頑張ってねー
もう少し寝ようかなぁー
フワァ…
あっ
おはよう…
スッ
もう昼過ぎだけど…
あれ…？
意外とあっさり…
もしかして奏さんにとってあのくらい普通なのか？
ガチャッ
お おはよう…


こっちは明らかに避けられてる気がする…
どうしたもんか…
とりあえず掃除でも…
ガタッ
ってあれ…？
キラッ
キラッ
…俺いつ洗ったっけ？
キャ！


桃香!?
スッ
もう！なにこれ訳わかんない！
ピーッ
ピーッ
何どうしたの!!
あっ！遼太ー！洗濯しようと思ってたんだけど…
変な音が止まらなくて…
ちょっそれ俺のパンツ…
へっ!?
カイマッ


キャッ
ブフッ
ハアーッ


イテテ…
な なにすんだよ
ピーピーピーッ
あ…
ごめんつい…


まったく…
ほらこのボタン
あぁぁ…
なるほど


洗濯
ピッ


それで
どういう風の
ふきまわし？
いや…
その…


俺の分まで家事をやろうとしてたの？
うん…それで今貯まってるポイントと相殺してもらおうと思って…
!!
でもまさか洗濯機すら上手く使えないなんて…
恥ずかしい…
なるほどな律儀というかなんというか…
クスッ
なに笑ってるのよ
いや…でもそんなに無理しなくてもいんじゃない？


グイッ
ほら肩貸して
洗い物とかして
疲れたんじゃない？
えっ！
別に疲れて
ないって…！
スッ
00:01.63
スッ
ピクッ
ニニ
ニニ
あっ
いいから
じっとしてて
ただの
マッサージ
だから…
あっ


それに早く
ポイント消費しちゃ
いたいんでしょ？
なんとか
今のぎこちない
感じを取り除いて
普通に接して
もらえるように
したい…
まあ
そうだけど…
桃香は
家事とか
苦手なの？
グニッ
おっ結構
凝ってるね
苦手っていうか
やったことない
っていうか…
うちは父さんが
厳しくて習い事と
勉強ばっかり
させられてたから…
家事は全然
やったことないん
だよね…
私がやろうとすると
それより
勉強しなさいって…


正直 実家は息苦しかった…
だからあえて遠い大学を選んだの…
シェアハウスなら家事を学ぶ機会もあるかなって…
まぁ…最近は遼太に任せきりだったけど
遼太は？なんでそんなに家事得意なの？
しるっ
俺？
俺の家は親が仕事仕事で家にいなかったから
下の兄妹の面倒みるためにおのずと家事スキルが上がっていったわけよ
ニッ


シェアハウスは…
ぶっちゃけ出会い目的だけど…
…まぁ金銭的な理由かな
なに今の間は…どうせ不純な動機なんでしょ…？
そそんなんじゃないって!!…ほら揉みにくいからパーカーちょっと脱いで下に座って…
ジー…
ジーッ
変な意味じゃないって…
スッ
変なことしないでよ
しないって


モミッ
モミィ
あぁ…そこ…
気持ちいい…
あっ


家でもよく親の
肩揉みしてたしね
家の事したり
兄妹の面倒みたり
遼太って
いいとこあるんだ…
ちょっと意外…
上手いもんだろ？
そうなんだー
あれ？
見直した？
別に…


スル
あっ
グイッ
あーこれ
腰周りもかなり
凝ってるね
スル
グイッ
あーやっぱり？
グイッ
わかるの？この前
荷物運んだとき
おかしく
なっちゃって…
これしっかり
ケアしないと
ヘルニアとかに
なるかもよ…？
えっ!?
まぁ俺も
プロじゃないから
詳しくわからない
けどね
うーん…
じゃあ念の為
お願い…


じゃあ
邪魔になるから
これ脱いで…
うん…
やべー
なんか適当なこと
言っちゃったな…
ついエロ心が
出てしまった…
でもこれで
また桃香を触る
ことができる…！
スッ
んっ
ピクッ
んっ…
グニッ
グイッ


ちょっ…
また変なとこ
触らないで…
あ…ん…
ビクッ
ビクッ
ただの
マッサージだよ？
ビクッ
あっ
ほら
力抜いて…
コリをほぐすから
ガバッ
プルン
グイッ
キャアイ!!
こら！
約束とちが…っ
ビクッ
あぁ…！
ペロッ


ペロッ
遼太ー!!
私の敏感なとこ
ばっかり攻めてくる…
ビクッ
ペロッ
胸も張ってる
そりゃ肩もこるよ
だめだって…
もう…あっ…
ん…!
モミ
モミ
ペロッ
あっ!!
ばかぁ…
ペロッ
可愛い…
ゾクゾクッ


ピクッ
それに
もうポイントも
ないでしょ？
ピクッ
ビクッ
ビクッ
ムニュ
も もういいから
…マッサージ…
ムニュパッ
まだまだ
あるんだなぁ
ズルッ
グイッ
キャッ


ビクッ
んっ!!
ムニュ
ムニュ
あっ
レロッ
遼太ぁ…
だめだって…
あっ…!
ペロッ
ガシッ
やっぱりだめ!
レロ…
レロ…
んあっ
ビクン


そうだ！
私だって家事して
ポイントあるんだし
私がマッサージして
あげる
？それって桃香が
タッチポイントを
使うってこと？
コリコリッ
そうそう
そっか…
じゃあお願い
しようかな
ホッ
スッ
やばかったー
イきそうに
なっちゃったよ…
わくわく
えっちょ…
遼太…？
何してるの？
何って
マッサージ
するんでしょ？
違う違う！
そういうんじゃ
ないって!!


ちょ…
遼太！
落ち着いて…っ
グイッ
キャ
待って
待って！
グイッ
私が言ってるのは
普通のマッサージで…
グイッ
くるっ
は はじめて
ちゃんと
見ちゃった…
だったら…


グッ
ちょ ちょっと
待って…！
何してんの!?
キャッ
ビクッ
ビク
レロ
レロ
あんっ
こら…あっ!!
だめ…
そんな…んっ
あっん
クチュ
クチュクチュ
ロ
ロ


すげー…
桃香のこんなに
濡れてる…
レロ…
バカ!!
もう見ないでよ!
ダメ!!
ビクンッ
ほら俺のも
触って?
ビクッ
ビクッ
もう…っ!
…こう?
グッ
凄い…熱く
脈うってる…
うっ…俺も
負けられないな


あっ
ダメ…！
ビクン
グチュ
グチュ
んっ
ビクン
んんっ!!
ビクッ
ビクッ
ヒクヒク…
ビクッ
ハァ…
ビク
ビク
トロ…
ハァ…
ハァ…
ハァ…
バカァ…


桃香 俺もう我慢できないかも
…えっ
桃香はこのままで我慢できるの？
あっ
ビクン
ゴクッ
ゴクッ
あっ！遼太…だめ…絶対にだめだって…
今入れたら…っ！
ビクンッ
グッ
グッ
グッグッ

「1分間だけ挿れてもいいよ…」シェアハウスの秘密ルール。(3)

著者　OUMA
発行　スクリーモ

この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには一切関係ありません。
本書の一部あるいは全部を無断で複製、転載、上映、放送、配信、送信したり、
ネットへのアップロードなどは、著作権法上での除外を除き禁止します。